

## 2023年度第3学期終業式校長挨拶（20240316）

皆さんおはようございます。

春が近づいてきました。桜も咲いていますね。エントランスのコヒガンザクラはすでに満開を過ぎましたが、大講堂の前のソメイヨシノも蕾もうっすら膨らみ始めました。

さて、今日の終業式では、今年度を振り返るとともに、皆さんが将来生きていくうえでの未来の社会問題として、私が一番心配していることについてお話したいと思います。

まず、今年度を振りかえってみます。今年度は5月のゴールデンウィーク明けにコロナが2類から5類へと移行し、コロナ前の生活に戻ってきた1年でした。とはいっても、インフルエンザも、通常冬に流行するものの9月ごろからはやり始め、インフルとコロナのダブル感染で、学級閉鎖や学年閉鎖が相次ぎました。辛い思いをした皆さんも多かったと思います。

そうした中でも、記念祭、体育祭、強歩大会など校友会の行事や部活動、さらには様々な校外活動で、武蔵らしい生徒諸君の活躍が多数見られたことはとても良かったと思います。私は武蔵の強みは「独創的」で「柔軟」にあると思います。人のやらないことをやる独創性。同時に異質を受け入れる柔軟性がある。この講堂の式でもHPの校長散歩でも、生徒諸君の活躍はたびたび紹介してきましたが、良かったなあと思います。

あと、ちょっと嬉しかった話をします。先日夕方、私が渡り廊下でポスターをはろうとしていたときに、背の高い武蔵生が来て、「手伝いましょうか」と声をかけてくれました。さりげない優しさ。公共心ですね。この中にその生徒がいると思いますが、ありがとうございます。「公共心」大切です。

さて、そうした武蔵生の日常から社会に目を転じていくと、時代が大きく動いていることを実感する1年でした。ロシアのウクライナ侵攻は長引き、ウクライナも守勢に回っていると報じられています。ガザ地区でのイスラエルとの戦いは多くの民間人を巻き込んでいます。まるでアニメや映画での世界がこの世に実際に起きていることに、言いようもない悲しさ、何もできないもどかしさを感じます。まるでアニメの進撃の巨人、あるいは映画のゴジラの描いている世界です。

話は飛びますが、先日、「君たちはどう生きるか」とともに、「ゴジラー1.0」がアカデミー賞を受賞しました。皆さんは見ましたか。私も両方とも見ましたが、ともに素晴らしい映画でした。今話題にしたゴジラについては、一言でいうと、「圧倒的な暴力」の象

徴として描かれていました。その「圧倒的な暴力」の前に、いかに人間が無力か、そして、それでも立ち向かおうとする人間の姿勢を描いた、メッセージ性の強い映画でした。

こうしたまさに「圧倒的な暴力」である軍事行動で世界が翻弄される一方で、国内では株価が4万円を超えるなど、今年度は、失われた20年とも30年とも言われた日本経済が変わる兆候が生まれ始めた年でもありました。

そうした激動する時代の中で、皆さんは今10代を過ごしています。そして20年後、30年後は30代、40代で社会の最前線で活躍をしていると思いますが、そのときの未来の社会の問題として私がもっとも心配していることを上げろと言われたら、1つは世界的規模で発生する気候変動、温暖化の問題。そしてもう1つが、とりわけ日本で深刻な少子化の問題です。今日はそのうち、人口減少・少子化の話をしします。

2023年の日本の人口は1億2400万人です。

女性が一生に産むであろう子供の数を示したのが、合計特殊出生率といいます。2022年の合計特殊出生率は1.26。つまり1人ちょっと。このままのペースで行くと、現在1億2400万人の日本の人口は、年間100万人のペースで減少し、2100年には6300万人に半減すると推計されています。

この6000万人の人口予測をどうとらえるか。

今から100年近く前の1930年の総人口は同程度6400万人でしたので、6000万人になるといっても、単に人口が急増急減して昔に戻るようなイメージを持つ人もいないかもしれませんが、実は100年前と質的な面が大きく異なります。というのも、当時は高齢化率、つまり65歳以上の高齢者が占める割合が4.8%であったのに対し、高齢化率は次第に上昇し、現在は29.1%、その後2060年には40%となり、2100年には高止まりで40%の状況が続くと推計されています。日本は世界に冠たる長寿老人国になるということです。長寿ということは、それだけ日本の医療福祉が高いレベルにあるということで素晴らしいことですが、人口の半分近くが高齢者ということは、年金負担や労働力不足、社会の活力低下など、様々な問題を生みます。

つまり日本の人口減少は、少子化とともに高齢化と連動して進んでいくという、世界にも珍しい形をとっていきます。この世界で未来に何が起こるかは、先行き不透明な時代なのでよくわかりませんが、人口動態だけははっきりしています。今から人口が半減し、しかもお年寄りが増えていくという国の姿は、確実にそうになっていく。しかもいきなりそう

なるのではなく、毎年毎年、少しずつ変化していくのです。

こうした状況に対して、「まずい」という声は昔からありました。21世紀に入って、君たちが生まれた今から10年前、20年前くらいからそうした危機感は強くなり、あちらこちらで例えば保育園を増設するとか、子供の医療費を無償化するとか、男性の育休取得推進とか、高校授業料無償化とか、様々な「少子化対策」が叫ばれてきましたが、実際は合計特殊出生率も劇的に回復することなく、依然として少子化が進んでいます。

ユデガエルの話を知っていますか。カエルがお風呂に入っている。少しずつ温度があがってくる。熱いから出よう出ようと思っているうちに、出ないままでしたら、最後はゆであがってしまう、もう手遅れというお話です。まさに少子化の問題は「ゆでがえる状態」です。

それではまずいということで、国も極めて強い危機感を持っています。昨年4月に新たに「子ども家庭庁」が発足。12月には「子ども未来選戦略」という新しいビジョンが発表されました。

その書き出しは、「少子化は我が国が直面する最大の危機である」という一文から始まります。そして、「2030年までがラストチャンスであり、我が国の持てる力を総動員し、少子化対策と経済成長実現に不退転の決意で取り組まなければならない」という悲壮な決意が述べられます。

というのも、例えばスウェーデン、フランスやドイツのように、ここ数年の少子化対策により、合計特殊出生率が上昇した国もあれば、お隣韓国のように、合計特殊出生率が0.72と1を割り込んで低下している国もあるからです。

政府は「異次元の少子化対策」を進めると言っています。具体的には、例えば皆さんに関連していることといえば、児童手当を18歳まで引き上げ所得制限も撤廃するとか、高校授業料を私学も含め「実質」無償化にするとか、三人の子どもが大学に通う場合は、その授業料を全部無償化するとか、あるいは東京都では私立中学校世帯にも所得制限なく一律10万円を支給するとかなどです。

興味がある人は、ぜひ「子ども未来戦略」、それから「人口ビジョン2100」、これは民間の有識者からなる人口戦略会議が出した提言ですが、それらを読んでみて、一体どのような政策で少子化、さらに日本の特徴である高齢化を伴いながらの人口減少に対応しようとしているか調べ、考えてみてほしいと思うのです。

でも、私が思うことは、結局これは大人世代が作った政策であり、願望だと思うのです。ここにいる君たち自身が、どう考えるか。5年後、10年後あるいは20年後ぐらいまでに、愛する人と出会って、そのパートナーと子どもを作り、子どもを育てていきたいと思うか、そしてどのようにパートナーと協力していくかどうかが大切なんだと思います。君たちの世代こそ、できれば異性も交えて、少子化対策を自分事として考えて、あれこれと知恵を出してほしいなあと願っています。日本には、男性の家事育児の参加、女性のキャリア形成など、まだまだジェンダーギャップの問題がたくさんあり、そのことが少子化とも大きく関係していると思います。

さて、大事なこと。愛する人と出会うには、どうしたら良いか。私が君たちと同じ武蔵生だった50年前、私はコンプレックスの塊で、異性に対するあこがれはありましたが、将来、結婚できるとも思っていませんでした。でも、卒業式の日、当時の体育の先生が我々にアドバイスをくれました。「いいか、好きな人ができたら、格好つけずに告白しろ。ふられてもいい。どんな女性も好きだと言われたら嬉しいんだから」と。

そのアドバイスのお通りでした。その後、こんな私にも、ふられながらも出会いがあり、結婚し、子供もさずかりました。みな結婚して孫もたくさん産まれました。だから少子化解消にはいささかなりとも貢献していると思いますが、今思うことは、色々大変なこともあるけれど、家族があるというのは有難くも幸せなことだなあと思います。

だから皆さん。まじめに生きていれば運命の人と出会うと思います。きっと大丈夫。そしてそのために大事なことは人間を磨くこと。内面が大事だと思います。そして出会いがあったら、ぜひまっすぐに相手の瞳を見つめて告白してみてください。そしてパートナーと一緒に、この日本の直面する大きな課題についてしっかりと向き合ってほしいと思います。きっと大丈夫。よろしくお願いします。以上、私が心配している未来のお話でした。

最後にいくつか連絡事項があります。

1つ目は、講演会がらみの話です。昨日、東京大学の松原仁先生の講演がありました。「人間とAIが共にある社会ーわれわれはAIとどうつきあうべきかー」。180名の武蔵生が参加しました。有難うございます。先生のご厚意により、当日使用した資料をゲークラスルームに公開しました。興味深い内容でしたので、参加しなかった生徒も、良かったら見てください。

それから新たな講演会の予告です。武蔵創立101年目を迎えるにあたり、今年度4月

14日に馬淵俊介さんをお招きして「創立記念講演会」を実施しましたが、来年度も行いたいと思います。

具体的には4月18日、午後の授業をカットして、ジャーナリストの池上彰さんをお招きします。池上さんも武蔵生との対話、質問を楽しみにしておられますので、皆さんも池上さんに聞きたいこと、聞きたいことなど、池上さんも多数本を執筆されていると思いますので、例えばそんなご著書を読むなどして準備をしておくとうよいと思います。卒業する3年生には申しわけありません。

このあとは今日中3生の中学卒業式。そして来週18日はいよいよ高3生の卒業式になります。良い式にしたいと思います。よろしくお願いします。

在校生の皆さんはこれから春休みに入りますが、有意義に春休みを過ごしていただき、また4月に元気な顔で会いましょう。

ご清聴ありがとうございました。